

人のご縁で

でっかく
まきろ！

南クロフネカンパニー代表

中村 文昭

僕の高校時代はただの不良少年で、悪さばかりやって何度も謹慎処分を受けてました。卒業後は何の夢も目標もなく上京したんですね。

それでたまたま焼き鳥屋さんで隣に座った人と話をしていたら、だんだん体が熱くなって「スイッチ」が入ったんです。そしてそのまま弟子入りをしました。

次の日から始めたことは、軽トラに野菜とか果物を積んで、それを売り歩く行商です。

軽トラの行商ですから目立たないといけないわけです。それで軽トラを赤と白に塗り分けるんです。深い意味はなくて、お客さんから見てやって来るときは白い軽トラで、帰るときは赤い軽トラという、ただそれだけのことです(笑)。

軽トラには「青年野菜行商重団」とか「歌って踊る野菜売り」とかいろいろ書いてたり、旗を立てて音楽ガンガンかけて走ってました。

恐るべし、歌って踊って売る行商スピリッツ

◇2◇

そんな歌って踊る野菜売りをやるんですけど、世の中捨てたもんじゃなく、行くところ行くところお客さんがいっぱい集まってくれて、そのお客さんが口コミで宣伝してくれてお陰ですごい繁盛したんです。

そのうち師匠(焼き鳥屋で出会った田端さん)が目標にした飲食店を出すだけの資金が貯まりまして、東京の六本木という華やかな街に店を出しました。たった7坪で席数10席の小さな店です。そして、あの「行商スピリッツ」があったお陰でその店もすごい繁盛しました。

数ヶ月すると、お客さんから、「お前、近所に店を出せや」と言われて、言われた通り、1店舗目から歩いてすぐのところ2店舗目を出しました。それも毎日満席になるんですよ。それから3店舗、4店舗と、店を拡大していきました。本当に不思議なくらい自分たちの目の前の景色が変わっていくのです。そ

うこうしていくうちに5店舗目をオープンさせて、株式会社を設立しました。ちよつと前まで軽トラで八百屋をやっていた僕らが、です。

そのとき、僕は師匠に呼ばれて言われました。「俺がお前に授けたものをお前はしっかり受け取った。お前はぼちぼち独立するべきや」と。それで師匠に放り出されるのです。21歳のときでした。

それで出身地の三重県に戻りまして、東京と同じ7坪の小さな飲食店から始めるんですけど、そんなときは周囲からめちゃくちゃ言われましたね。何か新しいことをしようとするとき、いつも言われるんですよ。これは日本人の癖だと思います。言われることはだいたいこういう言葉です。

「おまえなあ、そんなもん絶対無理じゃ」「おまえに出来るわけないやろ」「おまえ世の中なめたらあかんで」「この三つです。否定的アドバイスは3点セットですね」

だけど、あの「行商スピリッツ」があったお陰で850万の借金を作って始めたお店が7ヵ月後には全部借金を返済しました。

(昨年、高鍋西都法人会が主催した講演会にて)